

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290800240		
法人名	親愛ケアサービス 有限会社		
事業所名	すがの 親愛ホーム		
所在地	千葉県市川市菅野5-2-12		
自己評価作成日	平成28年11月20日	評価結果市町村受理日	平成29年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	平成29年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が今までの慣れ親しんだ環境を継続していただくために、落ち着いた雰囲気と、【花】【絵画】等を設置し、癒しのある空間の提供に力を入れています。また、いちかわ祭り、産業祭りにブースを出店し健康相談・介護相談を行い、10月より認知症カフェも開始し地域住民との交流を設けています。近隣小学校との交流及び子供110番の設置、自治会継続で各種イベント等にも積極的に参加。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. JR本八幡駅から車で8分の、閑静な住宅街に2年前に新設した3階建てホームです。近くに公園、学校、総合病院、商店等があり、生活に便利です。1階が小規模多機能型施設、2階・3階がグループホームになっており、両施設の連携により、地域貢献活動、各種行事、ボランティアの受け入れ、食事の準備、利用者・職員の交流等、効率的に運営されています。
2. サービス面では、職員にも恵まれ、利用者本位のサービス提供に努めており、開設2年ですが、今回外部評価に当たり実施した家族アンケートでも好評です。
3. 併設施設との共同で、今年の秋から①いちかわ祭りに健康・介護相談ブースの出店、②認知症カフェ開設(年4回予定)を始めており、真摯に地域貢献活動に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所としては、各種お祭りで【健康相談】【介護相談】を実施。自治会加入継続、地域行事参加等を行っている。職員全体に理念は浸透しつつあると思われる。	理念「利用者様とご家族の思いに寄り添い、共に歩み続けます」と基本方針3項目（地域密着を織り込む）を各ユニットやパンフレットに掲げてません。	朝礼や職員会議時に職員が唱和する等して、理念の周知徹底を図る事が望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のグループホーム、保育園、小学校、自治会、サポートセンターとの交流を行っている。 本年10月より新しく【認知症カフェ】を開始し、3カ月に1度継続開催していく。	自治会に加入し、行事（夏祭り、クリスマス会等）に参加しています。又近くの保育園や小学校と交流（歌や遊戯等）しています。今年秋から地域貢献の為、いちかわ祭りに健康・介護相談ブースを出店したり、認知症カフェ開催（年4回予定）を始めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一般の方を対象としたイベント【認知症カフェ】を本年10月より開始。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見については、厳粛に受け止め、代表取締役及び介護現場に報告して、サービス向上に努めている。	会議は年6回、市担当（1～2名）、民生委員、家族、職員（系列施設職員含む）で開催しています。議題は、利用者報告、イベント・地域活動報告、ひやりはっと・事故報告、市役所実地指導報告等を取り上げ、意見交換し、サービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者とは、書類提出時の交流以外は特になし。運営推進会議での意見を参考にさせていただいている。	管理者は市担当には必要な都度報告・相談しています。又運営推進会議時に必ず市担当が出席するので、意見や情報を貰う等、良好な関係を作っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する外部研修に職員及び管理者が参加して正しい知識を得るようにしている。	交通量の多い通りに面している為、玄関は昼間も施錠しています。職員は利用者の素振りを見て外出に連れ出し、拘束感を持たせない様にしています。外部研修は、管理者、職員が順番で受講しています。	①昼間の玄関施錠が止む得ない事を運営推進会議で説明し、市及び家族の了解を取る事、および②身体拘束を含めた年間研修計画を作成し全職員が必ず受講する事、が望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する外部研修への参加を開始。時折、管理者が夜間帯ケアのラウンドを行い、虐待の実情がないかを確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度については、まだ、具体的に職員には周知できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、管理者とケアマネージャー、広報職員等複数で行い、あらゆる視点からの不安・疑問点に答えられるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々に、意見・要望がある場合は、管理者が積極的に意見収集に面会時の面談を行っている。ただ、外部者に表す機会は設けられていない。	利用者からは日頃、家族からは訪問時、運営推進会議時、介護計画作成時等に意見・要望を聞き、運営に反映させています。家族アンケートでも「良く話を聞いてくれ、柔軟に対応してくれる」と好評です。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別に、意見を聞く機会は設けていないものの、グループホーム会議として、利用者の情報共有だけではなく、様々な意見の場としている。	管理者は、職員が話かけやすい雰囲気を作り、日頃、朝礼時、職員会議時(不定期)に意見を聞き、運営に反映する様に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者としては、職員情報を集めるようには努めているものの、度重なる管理者変更によって、深くは理解できていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	中堅社員を中心に外部研修に参加させ、新入職員については、入念なオリエンテーションを行い、その後、現場で指導職員を決め、管理者自身がOJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム及びサポートセンターのイベントに積極的に参加している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時の段階で、管理者、広報、ケアマネジャー、介護リーダーが訪問して、様々な不安を取り除く努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上。必要とあらば、自施設グループの関係者も積極的に同行している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	同上		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホーム職員は、利用者の生活スタイルを把握して、散歩・趣味等の今までの生活リズムを継続するように努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	接遇を含めて、家族との交流も行い、家族の考えも含めた、より深い介護が出来るように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人等の面会も、積極的に受け入れている。	家族は平均月1回は面会に来ています。利用者は一緒に居室で話したり、散歩に出て外食したり自由に過ごしています。中には法事に出掛ける人もいます。面会時間は9時～17時ですが、何時でも面会できるように柔軟に対応しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を深く認識して、生活共同室での席の並び方も考慮して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後の他施設への案内・紹介は管理者・ケアマネージャーが多岐に渡り積極的に行っている。また、逝去についても、その後の案内・関係業者紹介等も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活経過や思い出、関心事に興味を持ち、職員回覧として情報共有を行っている。また、カンファレンスも随時実施。	契約前のフェイスシートから個々の生活環境や思いを把握するようにしています。「絵を書きたい、編み物が好き、植物の水やり、食器洗い等」把握した様々な希望に沿うように、日常の支援の中で努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約・入居時に利用者だけではなく、家族からも情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況、心身の状態、嗜好を把握・職員間共有し、記録として残している。また、新しくバイタルについてはグラフ記入を開始。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の希望に添うように、職員間でカンファレンスを行い、ケアプランとしている。	本人や家族から訪問時に要望を聞き、3か月に1回、カンファレンスで話し合い、往診医からの診療情報も参考に介護計画を作成しています。家族には来訪してもらい説明後同意を得ています。体調の変化時には随時見直しをしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の生活を事細かに記録し、介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者嗜好に合わせて、散歩及び買い物同行を行っている。また、管理者・広報等職種にとらわれない散歩の同行等を実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来所を積極的に実施、子供110番も行って、地域協力を行う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院には、職員が送迎・付き添いを可能な限り行い、往診診療も行っている。	全利用者が月2回内科医の訪問診療を受けています。その他の科受診時は管理者か介護主任が付き添って(有料)います。訪問診療医とは24時間の支援対応がとられ、また夜勤専属の看護師が配置されていて、万全の体制がとられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	別階の小規模多機能型施設の非常勤職員として看護師1名を配置、また、夜勤専属介護職員として2名の看護師を配置している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ケアマネージャーが中心となり、病院等との連携・情報交換を行っている。また、広報職員は病院関係の集会等にも積極的に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては、家族との間で、早い段階から行っている。	契約時に「緊急時の対応、緊急時・事前確認書」を家族に説明し同意を得ています。体調の変化時には往診医から指示を得、家族の方針を優先しています。今年は看取りを2名経験していますが、今後は職員への研修が必要になると思われます。	今年実際に看取りを経験し職員への実地研修・指導となりましたが、全職員がどんな時でも安心して対応ができる為にも、マニュアル化する事や定期的に研修を行う事が望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個別に急変対応等の研修には参加しているものの、職歴の浅い職員には浸透しておらず、夜勤専従看護師を中心に施設内全体研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時に役割分担と防災訓練は行っているものの、地域との協力体制は今後の課題。	消防署立会い訓練(消火訓練のみで、利用者が不穩になり避難訓練できず)と自主訓練(点検・報知等)を実施しています。一連の防火装置・器械は完備し、緊急時対応表・連絡網は掲示されていますが、防災用品や飲食料品の備蓄は全く行われていません。	①避難訓練は必ず夜間想定で実際の訓練を実施する事、その際地域への声かけや職員の駆けつけ等を行う事、②更に災害訓練の実施と5日分程度の備蓄(水・食糧・防災用品)を行う事、が望まれます。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への話し方、態度については、尊厳を守る観点から、新入職員オリエンテーション時から指導している。	新人職員には支援する上で必要な事を、オリエンテーションで指導しています。言葉かけには原則「～さん」で統一し、必要に応じ名前で呼んでいます。不適切な言葉や態度が見られた時は、都度注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	同じ目線からの声掛け・傾聴により、利用者の気持ちを理解する努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の生活のリズムを把握し、個々の希望を可能な限り優先させている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃り・整容は安全を考えて共に実施。理容は外部業者を施設に呼び、気軽にお願ひできる環境を整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事レクリエーションを月に2回実施。安全な範囲で食事準備を行っている。食後の後片付け、及び食器洗浄については、ほぼ、毎日、行ってもらっている。	業者から湯煎用の食材が週1回、献立は月1回届けられています。利用者で出来る人は後片付けや食器洗いを手伝っています。お絞りを出したり、陶器の食器にする等雰囲気作りに気を使っており、おやつにホットケーキを作って喜ばれています。	毎日3食は湯煎用の食材で、ご飯と汁物は施設で調理しています。職員が試食したり一緒に食べていないので、①食事委員を決めたり、②要望を聞いて作ったり、③外食等で変化をつける等の工夫が期待されます。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は、記録用紙に記載し管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	当然ながら、口腔ケアについては実施している。義歯を装着している際の、注意も十分に情報共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、自立排泄を心掛け、支援している。	日中は1名を除いて殆どがリハビリパンツを使用し、時間で誘導しています。退院してきた後オムツからリハビリパンツに改善した人もいて、自立支援に努めています。夜間は3名がセンサーマットやベッド柵に鈴をつけて普通でない行動が分かるよう安全面にも気をつけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の健康記録を確認し、薬剤に頼らない便秘予防と対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	人員の関係で、利用者の希望に完全に沿うことはできないものの、湯ぶねに浸かる時間等は、健康を考えた上で、利用者の希望に応じるようにしている。	基本週2回の入浴支援を行っています。月～土まで(9:30～14:00)個々にお湯を入れ替え、2名～3名ずつゆっくり入ることを心掛けています。備え付けられた機械浴を現在2名が利用しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体を動かすレクリエーション等を行い、昼夜逆転しないように努める。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自分の意思で内服できるように、丁寧な声掛けを実施。薬剤の効能をカンファレンスで学び、誤薬のないように確認作業を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々で得意なことを把握して、食器洗い等お手伝いをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出支援を行っている。車両を使う場合は、介護職員だけではなく、送迎要員、管理者、広報、ケアマネージャーも積極的に協力している。	天気が良ければ、買い物を兼ねて散歩に週1～2回出掛けています。面会に来た家族と散歩や外食に出かける人もいます。初詣やおつき市、車で交通公園や国分川の花見に出掛けるなど、職員全員が協力し合って対応しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	上記同様、日常的に外出支援を行い、利用者持参金を厳密に管理し、家族同意のもと、嗜好品及び消耗品の買い物も同行で行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者希望があれば、電話使用を認めている。手紙についても同様。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りについては、常に明るく、絵画を掲示、明るい雰囲気を作っている。また、建物内も、利用者作成の掲示物及び絵画、ベランダにも多数の生花を設置し、癒しの空間を提供するようにしている。	リビング兼食堂は、明るく、清潔で、日当たりも良く、温度・湿度も調節され、利用者が居心地良く過ごせる様に配慮されています。ベランダの草花、壁に季節の飾り、貼り絵、行事写真、時計があり、生活感・季節感を感じます。利用者は、テレビ鑑賞、歌、ゲーム、体操、うたた寝等を楽しんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者に応じて机の位置を変えている。性格、テレビ等の嗜好、及び介護の能率も考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の慣れ親しんだ空間を、可能な限り再現するために、品物や写真等、記念の品々を持ち込めるようにしている。	居室はエアコンが備え付けで、他は持込みになっています。清潔で適度の広さがありますが、クローゼットがない分、居室担当が整理整頓を日頃心がけています。利用者の要望で、布団を床に敷いている部屋もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの大きさ、ベランダ設置、エレベーター・会談の自動ロック等安全面を考えた設計となっている。		